

## 特別図書資料解説

# 経済思想史研究文献・資料集成

## ーボーリ親子コレクションを中心にしてー



経済学部教授 井上 琢智

### I. ボーリ親子コレクション

本経済思想史研究文献・資料集成は、ロンドン大学統計学講座初代教授で、賃金と物価の関係や家計費調査に関心を持ち、物価指数論や抽出誤差論で優れた業績をあげた統計学者であり、また経済学者でもあった Arthur L. Bowley (1869-1957) とその娘で N.W. シーニア研究、さらには 17 世紀以降の貨幣・利子・価値・価格等の理論的研究で業績のあった経済学史家でロンドン大学教授であった Marian E.A. Bowley (1911-2002) の蔵書を中心に、本図書館に所蔵されていない限界革命トリオの一人である Marie Esprit Leon Walras (1834-1910) の主要著書からなっている。

本文献・資料集成は、1892年の父ボーリのコブデン賞の受賞を契機として、その蒐集が始まり、1957年の父の死亡後、娘が相続し、その後も蒐集され、サセックスのカントリーハウスで管理・保管されてきた。その間、一部の文献・資料は LSE (London School of Economics and Political Science) へ寄贈されたが、1975年、彼女の退職により、その蒐集は幕を閉じた。

ボーリ親子コレクションは、その構成分類上、A~G に区分される。

A 'A.L.Bowley's Printed Books and Papers' と称せられ、43点から構成されている。これらは A.L.Bowley 自身の著書のほぼすべてを含み、かつ本人の出版後の書き込み、さらには修正・加筆メモなどが含まれている。これは、今後進められるであろう A.L.Bowley 研究にとって不可欠な著書群であり、まさに世界で一点しかない貴重図書・資料といえる。

B 'A.L.Bowley's Obituaries, Memorials & Biography' と称せられ、2点から構成されている。

C 'A.L.Bowley's Academic & Professional Awards, Honours & Other Memorabilia' [Including a Fine Original Portrait] と称せられ、38点から構成されている。

D 'A.L.Bowley's Autobiographical Manuscripts' と称せられ、7点から構成されている。この親子コレクションの白眉の一つが、90頁にわたる未発表の自伝草稿であり、ほぼこのままでの出版が可能なのである。この自伝は全7章からなり、「祖先・誕生」から「レディング大学就職」までを扱っており、モリス、ラスキンらの社会主義者への傾倒から、数学研究、マーシャルの影響下での経済学研究への移行など、彼の青春時代が描かれている。また、1892-1944年の間の収入一覧など、彼の生活を知るうえで必要な資料を含んでいる。この草稿の早期の翻刻・出版が望まれる。

E 'Marian Bowley's Printed Books and Papers' と称せられ、12点から構成されている。これらは M.Bowley 自身の著書のほぼすべてを含み、かつ本人の出版後の書き込み、さらには修正・加筆メモなどが含まれている。これらは、今後進められるであろう M.Bowley 研究にとって不可欠な著書群であり、まさに世界で一点しかない貴重図書・資料といえる。

なお、彼女の経済思想史研究の主要テーマは、N.W. シーニア研究であるが、その研究に用いられたシーニアの著作4点がG群にも含まれている。本学図書館もシーニアの主要著作・書簡等を所蔵するが、この Marian Bowley 所蔵本の追加によって、本学図書館所蔵シーニア蔵書は充実する。

F 'Marian Bowley's Manuscript Notes, Correspondence and Memorabilia' と称せられ、6点から構成されている。ここに含まれるのは、Eの「主要著作」に



まれている図書 (4点)

Allen, Fleming, Gann, Jones

- ⑦ ‘A.L.Bowley’ のサインがあり、著者の謝辞が書かれている図書 (3点)

Stamp : 2点, S.Webb

- ⑧ ‘A.L.Bowley’ のサインはないが、著者の謝辞が書かれている図書 (3点)

Foxwell, Kalecki, Levasseur

- ⑨サインはないが、書き込みがある図書 (1点)

- ④ ‘R.H. Bowley’ のサインがある図書 (5点)

- ⑤ ‘J. Bowley’ のサインがある図書 (1点)

- ⑥ ‘Herbert Tout’ のサインがある図書 (1点)

- ⑦ ‘John Robertson’ のサインがある図書 (1点)

- ⑧その他の書き込みがある書物 (12点)

Bowley Research : 6点, A.L.Bowley, M.Bowley Researchなど

- ⑨検閲スタンプ<review stamp> 刻印のある図書 (1点)

## 2) M.E.A. Bowley 関連図書

- ① ‘Marian E.A. Bowley’、‘Marian Bowley’ とのサインが書かれている図書で、当該図書への書評(草稿等)等が差し込まれている図書 (29点)

Dobb, Keynes, Fisher, Simon宛の書簡など

- ② ‘Marian E.A. Bowley’、‘Marian Bowley’ とのサインが書かれ、かつ書き込み<謝辞含む>のある図書 (17点)

Townroe, Senior研究のための資料など

- ③ ‘Marian E.A. Bowley’、‘Marian Bowley’ とのサインが書かれている図書 (195点)

- ④ ‘Marian E.A. Bowley’ の発注書・領収書の差込がある図書 (6点)

- ⑤献本スリップ(献本者氏名あり)の差し込まれた図書 (5点)

Beveridge : 2点, R.D.C.Black : 2点, Merrett

- ⑥献本で書簡が差し込まれている図書 (5点)

Hollander, Meek, Newsholme, O'Brien : 2点

- ⑦献本で謝辞が書かれている図書 (1点)

Skinner

- ⑧書評などのメモが差し込まれている図書 (1点)

Rauner

- ⑨サインはないが、書き込みがある図書 (1点)

- ⑩父・母からのプレゼント (2点)

- ⑪ ‘M.E.A. Bowley’ のサインがあり、W.Nickson からE.Chadwickへの献本 (1点)

## 3) その他

- ①献本スリップ(献本者氏名なし)の差し込まれた図書 (2点)

- ②引用の原典となった図書 (1点)

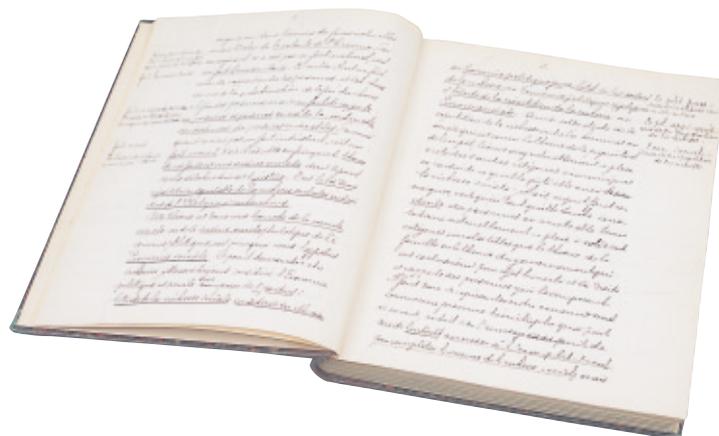
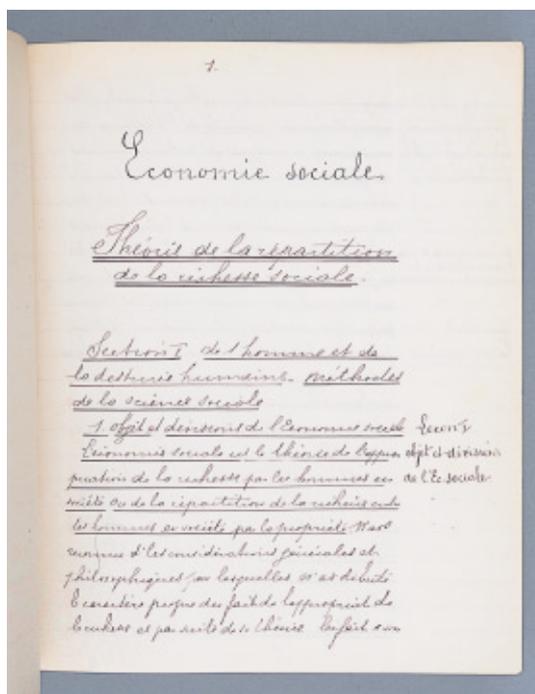
- ③草稿が差し込まれている図書 (8点)

## II. L.ワルラス・コレクション

本経済思想史研究文献・資料集成の白眉の一つは、近代経済学誕生に際して大きな役割を演じ、その後の一般均衡理論発展の祖となったL.ワルラスの主要著作の初版と22年間にわたり講義を続けたローザンヌ・アカデミーでの1882年頃の講義ノートである。本学図書館において限界革命トリオのうち、W. S. ジェヴォンズの著作(各版も含めて)はほぼ揃っており、加えて、マンチェスターのオウエンズ・カレッジで彼の講義を受講した学生により筆記されたノートまで所蔵している(このノートは現在、科学研究費補助金の助成を受けて、井上がその翻刻に努めている)。また、C.メンガーの著作は、ジェヴォンズほどでないにしても、その蒐集が充実されつつある。しかし、ワルラスについては、その主要図書がきわめて稀覯本であることもあって、その蒐集がもっとも遅れている。今回の文献・資料集成に本学所蔵のこの弱点を補う二冊が含まれていることは、きわめて高く評価される。なお、このワルラスの二冊の所蔵によって、今後、ワルラス著作コレクション蒐集が本格化されることが望まれる。

### 1) L.Walras, *Eléments d'Économie politique pure ou Théorie de la Richesse sociale*, 1874-77.

ワルラスの理論上の主要著作であり、一般均衡理論を最初に定式化した著作として著名である。この著作は1900年に4版が出版されたことから分かるように、ワルラスはこの本の出版後もこの著作の改訂に一生を捧げたため、他には『応用経済学』(1896)と『社会経済学研究』(1898)を出版したにとどまった。現代経済学の基礎を築いたきわめて貴重な図書である。



L. ワルラス <<経済社会学講義>>講義ノート  
Walras, Léon. [Cours d'] Économie sociale. Théorie de la répartition de la richesse sociale. [Lausanne, 1882?]

## 2) [Cours d'] Économie sociale. Théorie de la répartition de la richesse sociale. [Lausanne, 1882?]

シャルル・スクレタン旧蔵のワルラス講義筆記録であり、後年『社会経済学研究』（1898）として結実する重要な講義である。内容は、全8部56の講義からなり、ピエール・ドクス編集の講義集（『ワルラス経済学全集』第12巻）と類似している。スクレタンは、ローザンヌの初代哲学教授であり、ワルラスと交流があった。この筆跡からして、スクレタン自身が筆記した可能性があるとされる。ワルラスは講義内容を学生に筆記させていたため、この種の講義ノートはおそらく二点発見されており、これが第三の講義ノートの可能性がある。現在の経済学史研究の一つのテーマとして、「経済学の制度化」問題があるが、ジェヴォンスの3種類の講義ノートの比較研究と同様、ワルラスの3種類の講義ノートの比較研究が可能となるきわめて重要な講義ノートである。早急に翻刻され、既存のノートとの比較が行われることが望まれる。

これらのワルラス関連図書に加えて、今年度の文部科学省の研究設備経費による購入が決定した‘A Collection of Books & Manuscripts of Economists;

From Adam Smith to J.M. Keynes’には、ワルラスの「オープティ（A.Aupetit）宛の自筆書簡」20通が含まれている。オープティは、ジード（C.Gide）とともに、ワルラスの業績を高く評価した数少ない経済学者の一人である。この20通の書簡のうち、1909年1月11日付書簡までの11通はジャフェ編集『ワルラス書簡集』に収録済みのものであるが、他の9通は未収録の貴重な書簡であり、ワルラスとのその後の交流を明らかにするものである。もっとも『書簡集』収録済み書簡は、ワルラス自身の手元控え書簡であるのに対して、今回本大学図書館が購入した書簡は実際に投函された書簡であると思われる、両書簡の比較は研究上きわめて興味ある課題である。

### 井上 琢智（いのうえ たくとし）

関西学院大学図書館長、経済学部教授

専攻は近代経済思想史で、今は特に近代経済学と日本の近代化、経済学の制度化の問題を扱っている。主な著書に『ジェヴォンスの思想と経済学—科学者から経済学者へ—』、主な編著に、W. Stanley Jevons : *Collected Reviews and Obituaries*, 2 vols.、『近代経済学の開拓者』、『マーシャルと同時代の経済学』等がある。